

第4回精華町文化財保存活用地域計画作成協議会 議事録[摘録]

■開催日時 令和6年11月21日(木) 午後2時00分～午後4時30分

■開催場所 精華町立図書館(1階)集会室

■出席者 上杉和央会長、麻生美希副会長、田中淳一郎委員、前田真千代委員、
清水泰律委員、麻生ひろみ委員、神吉久永委員、
石崎善久委員、森山賢一委員、竹鼻毅委員、水谷直子委員

欠席者 檀上幸裕委員、岩本泰一委員、上原耕一委員、
事務局 川村智教育長、小笠原文紘生涯学習課長、瀧阪尚也社会教育係長、
大竹素主任主査、金澤木綿学芸員、中川博勝古文書等調査員、
宮前保子(コンサルタント)、渡邊萌木(コンサルタント)

傍聴人 0人

■次第

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) これまでの取組について(報告)
 - (2) 精華町文化財保存活用地域計画(素案)について
 - (3) 今後の取組について
- 3 その他
- 4 閉 会

■議事要旨

1 開会

<事務局>

ただいまから、「第4回精華町文化財保存活用地域計画作成協議会」を開会させていただきます。次第の通りの議題がありますが、どうぞよろしくお願いいたします。なお、教育長の川村と教育部長の松井は、急遽他に会議が入ったため、そちらの会議が終わり次第、参加させていただきます。

また、本日、学研都市精華・西木津地区研究機関協議会(SRG)の神吉委員に初めてご参加いただいています。

<神吉委員>

今期SRGの会長を務めることになりました神吉と申します。私自身はサントリーに所属しております。SRGは、サントリーを含め、島津製作所やオムロン、ATRなどといった企業が定期的に集まって情報交換等を行う会議となっています。今期の会長として、協議会に出席しております。よろしくお願いいたします。

<事務局>

それでは、次第に沿って進めます。これからの進行につきましては、議長である上杉会長にお願いしたいと思います。

2 議題

(1) これまでの取組について(報告)

<上杉会長>

よろしくお願いいたします。本日の議事は3つあります。進行のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。まずは、これまでの取組について生涯学習課からご報告をよろしくお願いいたします。

<事務局>

(事務局 大竹より、「精華町の宝もの探しWS」、「アンケート調査」に関する説明)

<上杉会長>

ワークショップに参加された11名の方は比較的高齢の方ということでしょうか。

<事務局>

若い方でも、60代です。

<上杉会長>

ワークショップの資料の要約として、1つ目は課題で、関心はあるけれども、実際にやってみる、もう一方踏み出すには新しい仕組みづくりが必要なのではないかというご意見がありました。2つ目は、精華町らしさについてのご意見で、「学研都市だけ」、「古いものだけ」ではなく、まち全体に関係して「交流」というキーワードがあるのではないかということです。事務局では、ワークショップやアンケートを踏まえて、地域計画にどのように反映させるのかというお考えがあれば、お聞かせください。

<事務局>

ワークショップとアンケートを通じて、皆さんが大切にしたいと思っておられるものが結構見えてきました。特に、精華大通りのメタセコイアについて、私どもが思っていた以上に皆さんが大事にしたいと思っておられました。これらを踏まえながら、神社やお寺、景観、風景、メタセコイア、公園等、皆さんの思い出があるものを計画の対象として盛り込んでいきたいと思っています。

また、子どもとどう関わっていくかということも意見として出てきています。これについても、計画の中で今後の課題として盛り込みたいと思います。一方で、町内にどのような文化財、宝ものがあるのかわからないというご意見もありますので、広報・周知や文化財を知っていただくための講座も、今後取り組んでいく必要があろうかと思っています。それから、ワークショップは、比較的文化財に関心がある方が参加していただいたものであるのに対して、アンケートは必ずしもそうではない方も多くいますので、両方のご意見を盛り込んでいきたいと思っています。

<竹鼻委員>

精華町にどのような文化財があるのかわからない、知らないという意見が結構あり、どうしたら町の人たちに知っていただけるのか、そのあたりが課題だと感じました。

<上杉会長>

情報発信について、精華町は、デジタルミュージアムを先進的に取り組んではいっていますが、それが届いてるかどうか、もう一歩踏み出して参加してもらうにはどうするのが課題であるという気がします。

<事務局>

アンケート結果について補足説明させていただきます。今回のアンケートの有効回答数は42件でした。同じ精華町でも、例えば総合計画の進捗状況に関するアンケートは、同じような手法で実施しておりますが、そちらの方は回答数が500件弱あり、数自体の差もやはり文化に関する知名度や関心の低さの表れではないかと考えております。アンケート自体は年齢層を問わずお聞きをしていますが、回答をしていただいた年齢層はやはり高齢の方が多かったです。

<上杉会長>

総合計画に比べると、まだまだ認知度は低いですね。発信はしていても、それを受け取ることが出来ていないのかもしれない。

<水谷委員>

私自身の体験ですが、最近、精華町のInstagramをフォローさせていただきました。そうすると、自分でわざわざ探しに行かなくても、Instagramを開くと、勝手にリールで、その時の精華町のイベントや新しい話題が表示されます。文化財の保存・活用に関する動画を上げる等SNSの活用方法を工夫すると、興味がなくても勝手に情報が入ってくるという機会が増えるのではないかと思います。

<清水委員>

情報に触れるかどうかは、個人のスキルや興味の度合いによると思います。旅に来られる人は、気がついてなかった、歩いてものすごくよかった、精華町にこんないいところがあるのですか等とよく言われます。ですから、本当にその人が興味を持って、一歩踏み出してくれたら、気づきも情報もあります。11月の「みつける」のジョイント企画、私達でメタセコイア並木を歩くイベントを企画していて、記事にも掲載していただいています。今度の日曜日ということで、日が悪かったのかなと思うのですが、現時点で参加申込者は1人です。「華創」は全所帯に配布されていると思いますが、若い人はほとんど見ていないと思います。

<上杉会長>

「みつける」について、ご紹介していただきたいと思います。

<森山委員>

「みつける」は商工推進室で、発行しています。先ほどご紹介がありましたように、ふるさと案内人の会でまちあるきを連動して行っていただきます。今年はまだメタセコイアがあまり色づい

ていませので、そういうことも参加者の数に影響しているのかなと思います。Instagramも
商工推進室で運用していますので、少しでも情報発信と集客に力を尽くせればと考えておりま
す。

(2) 精華町文化財保存活用地域計画(素案)について

<上杉会長>

2番目の議題、精華町文化財保存活用地域計画の素案について、事務局から説明をよろし
くお願いいたします。

<事務局>

(事務局 中川より、精華町文化財保存活用地域計画(素案:序章～第4章)に関する説明)

<上杉会長>

序章から4章までご意見やご質問はありますか。

<竹鼻委員>

17ページに「光台と周辺の野生生物一覧表」があるのですが、光台の周辺と限定しなくて
も、精華町でいいのではないかという気がしました。

<事務局>

住民の方による光台周辺での調査で、実際に生息していることが確認されているものを掲
載しています。それ以外のエリアについては詳しい調査ができておりませんので、光台周辺に限
定しています。

<竹鼻委員>

最近、アカギツネを山田川の周辺で見かけました。

<事務局>

網羅的な調査がおよんでいませんので、そのあたりは今後の課題です。

<石崎委員>

16ページの、生態系の調査は基本的に全域でやることはないので、それをまず前提に書い
たらいいと思います。精華町として、町域全体を調査しておりませんが、光台では調査が出来て
いて、その結果がこうです、というように記述してはどうでしょうか。

<上杉会長>

16ページの本文で、竹鼻委員の目撃情報も参考に、全域に補った方が良いと思います。表
1-2については、資料としてもこのままで良いと思います。

<竹鼻委員>

31ページの図1-25に、かしのき苑が載っていませんでした。

<事務局>

修正します。

<竹鼻委員>

49ページで、神社建築の中で、「附として」とありますが、これはどういった意味でしょうか。

<事務局>

これは「つけたり」と読みます。文化財の指定案件としては本殿という建物ですが、附属指定で棟札という木の札がありまして、そういうものは「つけたり」という独特な言い方をします。最終的に、必要なところにルビを入れます。

<水谷委員>

16ページの気候ですが、私は桜ヶ丘に住んでいて、霧の多いところだと思っていますが、桜が丘だけでしょうか。そういうことも、気候のところにに入れてもらえたらどうかと思います。

<事務局>

気づいていないだけで実は桜ヶ丘は霧が多い場所かもしれないし、そのあたりも調べてみたいと思います。狭い町内ではありますけど、環境が違いますので、違いがあってそれぞれの地域の特徴となっているのかもしれない。

<上杉会長>

基本的には山田川の両側の少しくぼんでいるところに、空気がたまることによって霧が発生しやすい状況は一般論としていえます。そうした微気象は面白いですね。

<前田委員>

私は、東畑なのですが、昔から精華町のチベットなんて言われていました。霧もよく出ます。東畑は前に山があって後ろに山があるんで、そういった谷あい的な地形ではないでしょうかね。

<上杉会長>

霧については、2ヶ所で出てきましたから、せっかくなので書いておきましょう。役場職員の方にヒアリングすれば、各地の状況が分かると思います。

<麻生ひろみ委員>

今回の素案を読ませていただいて、本当に精華町のことを知って欲しいのだという気持ちが伝わってくるような内容で感動しました。言葉として「日本遺産」とか「都市景観百選」とかがあちこちに出てきますが、そのリストがあったらもっと分かりやすいと思いました。算額が奉納された神社はないのでしょうか。寺子屋もたくさんあったので和算を学んでいた人はいなかったのでしょうか。

<事務局>

町内に算額はありますが、町内で学んでおられてどこか遠いところで、奉納された例があ

ります。

<麻生ひろみ委員>

それから、丸山について「校歌に歌われるなど、住民から親しまれてきました」と過去のですが、今も校歌は変わってなくて歌われているのでしたら、「親しまれてます」としてはどうでしょうか。

<上杉会長>

大変重要なお指摘です。

<清水委員>

59ページに用水施設について、4行目に、「けいはんな記念公園の水景園には永谷隧道の完成記念碑「通水碑」が移設されるとともに隧道の抗口が復元されています。」とあり、その5行下には、「菅井の天王神社には、永谷池からの導水に使用された土管が残されています」とあります。今まで、飾っていたのはここだけだったのですが、使用された土管は植田と菅井と南稻、それぞれの地区で記念に残してありました。南稻の土管は処分されたのですが、植田の土管は水景園に3月に置かれました。写真もありますので補足していただけたらと思います。

<事務局>

現状を教えていただき、写真をいただいて、文章に加えたいと思います。

<田中委員>

例えば3ページ等で、第6次総合計画等の中で「まちづくり」とか出てきていますが、このひらがなの「まち」というのは何か使い分けがあるのでしょうか。86ページのところでも「新しいまち」と出てきています。

<石崎委員>

「まちづくり」がひらがな表記についてですが、行政用語としてひらがなを利用しています。

<事務局>

ひらがなと漢字の表記の使い分けについて、整理がしきれていない部分があるので、「まち」以外の表記でも、揺れがないか全体を通して確認を行います。

<田中委員>

12ページに、「精華」という語が「『楚辞』や『経国集』といった中国や日本の古典にも登場する」とあるのですが、本文で難しければ、コラム等で、原文をきちんと引用して書くと、大変勉強になって良いのかなと思いました。それから、13ページでは、「祝園の南地区のように」とあり、別のところで「祝園村の南村は」で出ています。私達は南村を知ってるからわかるのですが、まとめてもらえたら分かりやすいと思います。

<事務局>

南村と書いてるのは江戸時代の叙述のところで、今の南地区にしてしまうと駅の東も入り、少

し範囲が広すぎるので南村としています。検討します。

<田中委員>

南地区と旧南村が一緒なのかどうか、新しい住民の方々にもわかるように、少し工夫していただければと思います。それから、30ページの地図は色が区別できません。色を変えるか、記号を振るかして分かりやすく工夫してください。

<事務局>

ご指摘を踏まえて、修正します。

<田中委員>

51ページの法蓮寺について、前住職でしょうか。山本空外さんは亡くなられています。

<事務局>

亡くなられた時点では、住職でしたので、表現を考えます。

<田中委員>

52ページに、「若王寺木造阿弥陀如来坐像～仏師康尚の作風～」とありますが、その5行下に定朝様がありますので、「定朝の師匠である康尚」等としてはどうでしょうか。

<事務局>

検討します。

<田中委員>

74ページの白土の説明で、「カルタの製造や白米の精白に用いる」とありますが、これはどういうことでしょうか。

<前田委員>

白土をカルタの芯に入れていたんです。それから、玄米を精米機にかけるときに、米が精白しやすいように混ぜていましたね。最後に、糠と一緒に振り分けられます。米だけだと、すり合わせが良くないということで、そのように使われていたのをよく見ました。磨き粉の原料として使われるのが主流です。白土は、細かさを二・三段階あります。

<田中委員>

東畑では「しらつち」と呼ぶのですか。

<前田委員>

「はくど」でも良いですが、「しらつち」ですね。その中で、非常に微粉に当たるものは、カルタに入れて、それがかなり高価だったみたいです。商業的に売るときには、磨き粉なんかよりは高価で、京都のカルタ業者が買い付けに来ていました。白土を採った段階で、3種類ぐらいに、微粉と少し荒いのを分けまして、一番微粉をカルタの芯とかに使って、工業用には荒いものとか、そういった使い分けをしていたみたいです。今はもう穴が少し残っている程度ですが東畑の遺

産です。

<田中委員>

面白いですね。もっと書き足してもいいくらいです。

<事務局>

この白土の件に関しては、以前町史のときに、東畑の森田高史さんという方が、記事を書かれました。それには書かれていないようなことを、昨年愛護会の前田委員が、実際に幼少の頃にも見聞きされておられたので、カルタの製造や買い付けに来られたこと等を文章に書かれたので、そういった情報を加えさせていただきました。

<竹鼻委員>

第5章に綿花や生糸等が出てきますが、99ページの住民団体による取組について、けいはんな記念公園の中に相楽伝承館について記載しなくてよいですか。

<事務局>

相楽木綿伝承館は確かに記念公園にあるのですが、相楽木綿の会自体は、もともと木津町時代から色々と活動されていた関係もあって、木津川市の計画も出てきておりますので、本町の計画からは外しています。

<石崎委員>

相楽木綿の会の所在地は今のところは、相楽木綿伝承館になっていますし、府の指定自体も所在地は精華町になっています。相楽木綿自体が精華でも織られていたということが担保できれば記載しても問題ないと思います。

<前田委員>

相楽木綿というのは少し特別です。うちの祖母が機織をしていた木綿類を相楽木綿伝承館へ持っていき、これは相楽木綿ですかと聞いたのですが、相楽木綿だとは言われませんでした。

<石崎委員>

普通の平織りではなく織り方に特徴があって、撚れみたいなものがあります。それから、特徴として、いろんな色を使います。織り上がったときの質感等が違います。

<上杉会長>

織物はこの一帯で近世から行われていたと思いますが、精華町域でもそうだったのですか。

<前田委員>

そうです。衣類を家で作っていて、機織り機もありました。

<田中委員>

相楽木綿は時代も限定していました。始まりは明治以降で戦前までの割と狭い期間だと思います。

<上杉会長>

5章で、織物を意識して基本理念を作ってますので、4章までのところで、織物については整理をしていただければと思います。

<麻生ひろみ委員>

99ページの学校教育で、「精華南中学校では」と書いてありますが、他の中学校ではやっていないのでしょうか。

<事務局>

現状は南中学校だけです。

<麻生ひろみ委員>

この間の精華まつりのときに、地域貢献プロジェクトで、精華西中学校が子どもまつりを自分たちで企画していました。他の中学校は、総合的な学習で、歴史・文化財に関しての取り上げないので、精華南中学校だけの名前が出ているのでしょうか。学校の担当者が変わったら、ある程度変わるかと思しますので、1つの学校だけ名前が出るのはどうなのでしょう。

<事務局>

テーマを選ぶときに文化財を選んでくれるグループもありますし、そうでないところもあります。

<麻生ひろみ委員>

地域貢献プロジェクトはどこの学校にもあるんですね。その中で文化財をとり上げるということですか。

<上杉会長>

そこを調べていただいて、正確に書いていただくようにお願いします。

<麻生ひろみ委員>

精華中学校のコミュニティスクールに触れられていますが、これは一般社会人対象なののでしょうか。それとも中学生対象でしょうか。

<事務局>

住民向けの講座で、生け花や歴史の講座などがあります。学校へ来ていただくので、中学生との交流の機会にもなります。

<田中委員>

79ページで、おしらいさんについて書かれていますが、その説明の1行目に、「地域特有の伝統行事」とあります。おしらいさんはどこにでもあります、地域特有というのは、どうということでしょうか。

<事務局>

盆行事自体は、各地にあります。島を設けて線香を建てて、おしよらいさんを迎えるというのは、南山城特有です。そういった意味で地域特有としています。

<田中委員>

少し誤解されそうだと思います。ちなみに砂の壇の「壇」は土偏です。

<上杉会長>

続いて第5章以降について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(事務局 金澤より、精華町文化財保存活用地域計画(素案:第5章～第7章)に関する説明)

<上杉会長>

まずは5章に絞ってご意見をいただきたいと思います。

<麻生ひろみ委員>

9月28日に開催された「せいかまちづくりフォーラム」の発表で、文化財を展示する場が欲しい、ということをおっしゃっていました。具体的には、どのように考えておられますか。

<事務局>

活用の措置の中に記載しています。いきなり博物館を建てることは難しいとは思いますが、13ページの措置9「文化財3Dモデルの作成と公開」を検討しています。まずはデジタルでご覧いただき、現物を出すための準備はその間に進めるというようなことを想定しています。

<上杉会長>

行政と住民や団体が一体となって進めていくというときに、良い将来像が共有されるというのかなと思います。30年後の将来像「これまでを守り伝え、これから織りなすまち」は分かるようだけれども、精華町じゃなくてもどこでも当てはまるものではないかと思いました。精華町らしい将来像を考えると、素案の第3章にある歴史文化の特徴の中の言葉を使うことも考えられますがどうでしょうか。今回の案を見ていただいて、計画に慣れておられる立場から、神吉委員より少しご助言いただければと思います。

<神吉委員>

初見で拝見させていただいて、すごくしっかりと将来を見据えて、計画されているように受けとめております。私が勤めておりますサントリーは創業120年ほどになりますが、文化財という意味で言えば、創業当時の赤玉、ポートワインから始まりました。しかし、全て後追いで保存しているという感じがあります。将来を見据えての活動でいうと、新しい森づくり等、企業として何かできることを考えて計画立てて取り組んでいます。

<上杉会長>

SRG全体として精華町の一部であるというときに、精華町にある企業としてこういうことができる、ということがあればぜひしていただきたいと思います。例えば、文化財かどうかは別として、企業目線でこれから30年後を見据えるときに、「これまでを守り伝え、これから織りなすまち」というのは、内容がもう少しクリアな方が良いでしょうか。

<神吉委員>

現在は変化の激しい時代であり、明日何が起こるかわからないということはよく言われています。どんな商品を作ったらお客さんに売れるのかとか、調査はしつつも、変わりゆく状況を踏まえながら、手探りで取り組んでいる状況です。なかなか企業活動で20年後、30年後というところは言えませんので、どういう方向を向いて企業理念にたがわないように活動していこうという、そういった大きなイメージで行っています。

<石崎委員>

30年間は将来像が変えられないですね。将来像に向かっていくための、5つの基本方針があります。基本目標1が調査研究、2は保存、3は防災で、4・5は何を指してるのかがよく分かりません。例えば、観光や産業振興、教育等の活用が基本目標4・5に入ってくると思うのですが、それが将来像「これまでを守り伝え、これから織りなすまち」にどうたどり着くのかが見えてきません。地域計画は、まちづくりや人づくりにも絡むものなので、どこにターゲットを据えているのかがもう少し見えるほうが良いと思います。

基本的には、文化財は、調査研究、保存と活用が円環を描いて上昇していくというのが、理想的な状態といわれます。基本目標4・5はおそらく活用を指してるのだと思いますが、どういう面で活用するのかという方向性は見えないですね。

<事務局>

基本目標4は情報発信と愛着の形成、基本目標5はどちらかというと地縁の形成に軸足を置いたものです。基本目標4はファンをどんどん増やして愛してもらう、基本目標5は愛してもらったものを使ってみんなで仲良くするというイメージです。それから、基本理念とつながりでは、目標1・2・3が「過去をほどこ」、基本目標4が「現代をつなぎ」、基本目標5は「未来をつむぐ」に該当すると考えています。

<石崎委員>

基本目標5つを達成して30年後に「これまでを守り伝え、これから織りなすまち」にどう繋がっていくのかなということが気になります。4でおそらくファンができて、5で地域コミュニティができて、そうするとこれまでを伝えることはできるのですが、「これからを織りなす」はどう取り組むのかわかりませんでした。

<事務局>

基本目標や基本理念、将来像を検討する上で念頭に置いたのは、文化財を活用して、新しい何かを生み出せるような計画にしたいということです。ですが、何を具体的に作っていくのかということまでは踏み込んでいません。

<石崎委員>

この地域計画のいいところは、新しいものも精華町の宝ものとして定義されているところです。そういった新しいものもきちんと活用できれば、将来につなげていける可能性もあります。

<麻生美希副会長>

「これまで守り伝え、これからを織りなす」ってすごくいい言葉だなと思うのですが、基本理念で「過去をほどこき 現代をつなぎ 未来をつむぐ」とすでに書いてありますよね。割と同じことが書かれているのではと思いました。改めて第3章の歴史文化の特徴を見ると、すごくいい言葉も結構出ています。「人が繋がりが育て」とか「交流」とか、そういった言葉を入れて、新しく何か価値を生み出すということも加えるといいのではないかと思います。

<麻生ひろみ委員>

3ページに、「人がつながり夢を叶える学研都市精華町」というのが出ており、これが一番の目標ですよ。精華町の特徴として、色々な関係者が集まってきているので、せっかく集まってきた人たちがうまく文化財を通して繋がっていけばいいのかなと思います。例えば遠くから通勤してきた人がすぐに帰ってしまったり、子どもたちがどんどん外に出て行ってしまったりなど、通り抜けてしまっていた人たちが留まってくれるような、上手い言葉があればよいと思います。「守り伝えて人が繋がるまち」とかにすると少し具体的なイメージ沸きます。

<事務局>

ワークショップに参加してすごく印象に残ったのが、新しくこの町に来た人が精華町をふるさとして子どもに体験させたい、だから祭り等に参加するモチベーションは実はあるんだというお話でした。新しくこのまちにやってきた人たちにとってもふるさとなのだと思いました。ただ、ふるさととすると、学研都市の先進的なところがやや背景に退くような気もしています。ふるさとでありつつ、新しくというニュアンスを検討していきたいと思います。

<上杉会長>

30年後にふるさとして誇れるまちになっていることを目指すのだと思います。「交流」、「ふるさと」、「育む」だったり、歴史文化の特徴に出てくるような言葉やニュアンスを意識しながら検討していただきたいと思います。それでは、引き続き6章、7章についてご意見はありますか。

<石崎委員>

地域計画を作成すると、精華町での文化財、精華の宝ものを活用・保存していくような団体として、地域計画の実行協議会を作ることができます。そうすると文化庁から定額補助の補助金があります。ですので、協議会を作られるのかどうかは1つ肝ではないかと思っています。そのあたりは、8章の推進体制での話となりますが、町ではどのようにお考えでしょうか。例えば、今の精華町の文化財の所有者の連合会を中核に据えてそこにまちづくりの人たちも行政も入って、協議会を作って計画に基づいたこの事業を行うのであれば、定額の補助金が出ます。

<事務局>

補助金について十分理解できていないところもありますので、ご助言をお聞きて、検討していきたいと思います。

<石崎委員>

府内で、現在補助金を申請しているのは京都市と亀岡市、長岡京市です。

<竹鼻委員>

財源の話が出たのですが、例えばクラウドファンディングやふるさと納税で、文化財に限定して使うとか、そういったことは関係ないですか。

<上杉会長>

ふるさと納税の項目として、文化財の保存・活用に使うというのもあります。保護の部分は、文化庁の補助や京都府の補助等、補助メニューがこれまでもあるのですが、単体の文化財ではなく、歴史文化全体に関わることで、それを生かした新しく何かを創造したいということを国の補助で取り組むのはなかなか難しいところがあるので、企業からの寄付等もぜひお待ちしております。様々な財源を描いたほうが面白い、実行力がある計画になると思います。

<石崎委員>

財源は、主な財源とかにしておいて、本文に、クラウドファンディングや企業版ふるさと納税、寄付等を記載すればよいと思います。いわゆる企業の助成制度もあります。それぞれの事業に応じたものを検討しますと記しておけばいいのではないかと思います。

<竹鼻委員>

4ページの多様な精華町の宝ものの未発見の中で、「文化財の保存技術については、所在を把握できていない状況です」とありますが、文章に違和感があります。

<上杉会長>

これは、文化財の保存技術というカテゴリーで特定の用語です。ただ、確かに少し文章に違和感があるので、表現を工夫してください。

<竹鼻委員>

7ページの、災害発生後の保全の中で、「応急処置を行う必要」が正しいです。それから、8ページの生活様式の変容による住民活動の減少の中で、下から「精華町の宝もの」が鍵括弧で示してありますが、これは何か意味があるのでしょうか。

<事務局>

これは表記揺れの統一が出来ていないので、修正します。

<竹鼻委員>

その下の次世代と精華町の中の断絶状態の2行目で、「役に立たない」というところは鍵括弧がありますが、これもなにか意味があるのでしょうか。

<事務局>

強調や引用の意味で括弧をつけただけであって特別な意味はありません。

<竹鼻委員>

措置43の事業概要で、「所有者等は、精文連の活動を通じて」とあるのですが、精文連の意味が分かりませんでした。

<事務局>

第4章100ページ(3)で挙げております、精華町文化財所有者等連絡協議会という団体の略称ですが、表では離れていますから、書き方を検討します。

<麻生ひろみ委員>

4ページからの課題が、それぞれ鍵括弧でくくられているのですが、1・2・3等として項目番号があった方が、項目の切れ目が明確になって分かりやすいのではないかと思いますでしょうか。

<事務局>

レイアウトを検討します。

<神吉委員>

震災の被害想定について、最近京都府が新しく出しているものがあるみたいです。この辺りの新しい情報は震度7の予測となっていたと思うのでご確認くださいませ。

<事務局>

第1章19・20ページで、最新の情報を反映します。

<石崎委員>

文化財の寄贈・委託の受け入れは非常にいいとは思いますが、現実的な問題として、一定保管できる用途があるのでしょうか。各地では、受け入れの基準を作ってなかったとか、実際に活用されていないなどという問題がありますので、寄贈・委託の受け入れについて、基準を作ったほうが良いと思います。

<事務局>

基準の作成を含めて、再度検討します。

<石崎委員>

措置9「文化財3Dモデルの作成と公開」は、真剣にお考えでしょうか。

<事務局>

写真合成等を活用して3Dモデルを作成します。Sketchfab等のWebサービスを使って公開をしたいと考えています。

<石崎委員>

基本的には精華町さんをお持ちの文化財は民具と出土品、古文書でしょうか。

<事務局>

古文書類はなかなか3Dにはできませんし、デジタル化するにして量が多いものや目録のないものもあります。古文書は、写真だけ出すわけにもいけないので、翻刻作業も必要になります。

<石崎委員>

文化庁でも、いわゆる文化財のデジタル化が叫ばれています。3Dモデルと書くのではなくて、例えば「デジタル化」としておいて、その手法の中に3Dや高精細の古文書データ、或いはデジタルミュージアムもできますよというのであれば、デジタル田園都市構想の補助金は、地域活性化という名目で十分使えると思います。

<上杉会長>

その他、何か気づいたことがあれば事務局にお伝えをお願いいたします。

(3) 今後の取組について

<上杉会長>

3番目の議事、今後の取組について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

今年度は、あと1回、来年の2月頃に協議会を予定しております。来年度は、最高でも3回までを目途に協議会を開催させていただき、文化庁に提出したいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

3 その他

4 閉会

<事務局>

上杉会長、進行いただきありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、非常に色々な角度から積極的なご意見を賜りましてありがとうございます。いただいたご意見等をもとに次回の協議会で再度事務局案をご提示させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

<川村教育長>

今日は、5章のところから入って参りましたが、たくさんのご意見を本当にありがとうございました。今年度は残り1回、来年度は3回の協議会を開催するということで、大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

<事務局>

それでは以上を持ちまして本日の協議会を終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。